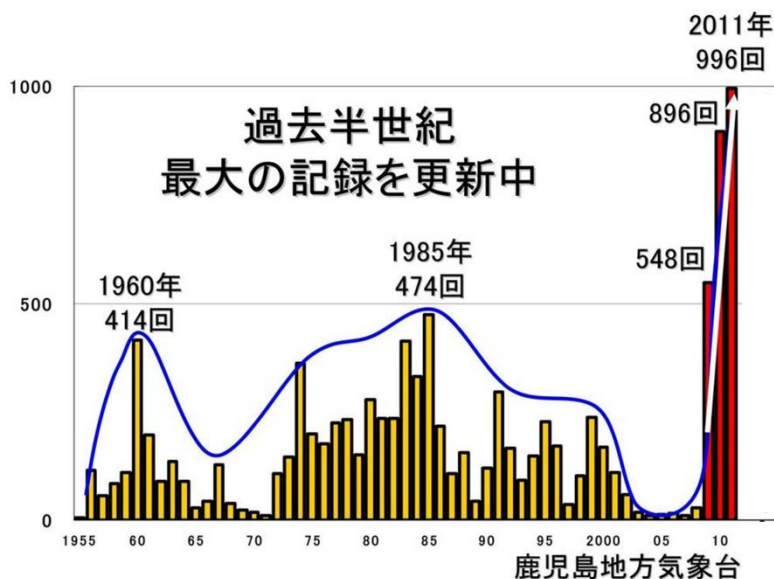


桜島で比較的規模の大きな噴火がありました。

8月18日、桜島で比較的規模の大きな噴火がありました。昭和以降最大と報道されています。確かに桜島は2009年以降活動が活発化しています。ただ5000mの高さまで噴煙が上がった事が強調されていますが、2000年10月にもほぼ同様な爆発が起きています。ちなみに爆発の数は2012年は895回、2013年は8月18日の段階で500回を超えたという状況です。

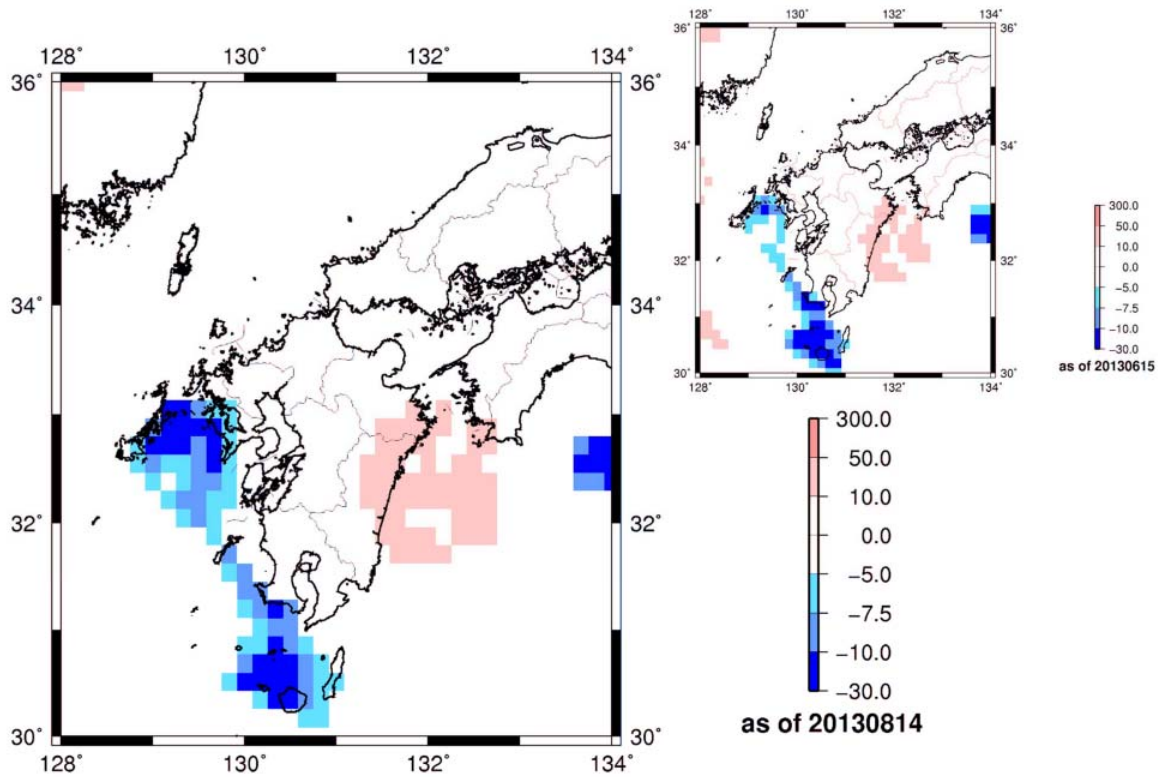


京都大学が「現時点で大きな噴火につながる兆候はない」と発表しているのは、GPS地殻変動観測で山体の膨張に特段の異常が無いという事だと思います。火山の場合、地震と違いターゲットとなる場所がはっきりしていますので、噴火する／しないという事に関してはかなりの確かな情報が出せるようになります。地震の場合、「いつ」、「どこで」が重要ですが、火山噴火予知の場合、最も難しいのは、噴火の推移(収束)の予測です。伊豆大島でも三宅島でも全島避難解除の判断は困難を極めました。

鹿児島はそれなりに降灰対策も進んでいますから、この程度の混乱で収まっていますが、日本のそれ以外の地域は火山灰対策に全く不慣れな状況です。地震と違い、火山噴火は長期間続くことも多いですから、今後の行政の危機管理の大きな課題だと思います。

九州を中心とした地域の地下天気図

桜島の噴火もあり、九州広域の地震活動を評価してみました。まだ詳細な解析ではありませんが、現時点で顕著な地震活動の異常は存在していないと考えています。



上の図は8月14日時点の地下天気図です。九州西方および南方に濃い青い領域がありますが、面積も小さく深刻な異常とは考えていません。右上の図は2ヶ月前の6月15日時点のものです。基本的なパターンに変化が無い事がわかります。